

# 東風見聞録

平成21年7月発行 通巻32号  
 イーストウインド・プロダクション 田中正人・竹内靖惠  
 群馬県利根郡みなかみ町鹿野沢六三七 M 三〇一

## アドベンチャーレーシングジャパンシリーズ2009

昨年より始まったアドベンチャーレーシングジャパンシリーズ(ARJS)。すでに富士山大会、岐阜長良川大会、三浦横須賀大会が終了し、残りは南信州大会(10月予定)と長州大会(11月予定)となる。

今年第一戦の富士山大会は11チームと少ないチーム数だったが、ロープアクトイビティの難易度も高く、チャレンジし甲斐のあるレースとなった。

第二戦は岐阜長良川大会。7チームと過去最小数の参加数だったが、運営・コース設定とも一瞬足りとも気を抜かず、かなり刺激のあるレースとなり、参加者からも「大満足！」の声を頂いた。

第三戦は三浦横須賀大会。首都圏に近い事もあり参加チーム数は19チーム。この大会の目玉は何と言ってもシーカヤックである。最高のロケーションでの大会となった。

さて7月に予定していた南信州大会が許可の遅延により、延期となり、開催予定は10月を検討中。是非、楽しみにしていて欲しい。

## イーストウインド公開トレーニング参加者募集

月に一度行うチームイーストウインドの公開トレーニングでは、将来のトレーニング希望者や世界のアドベンチャーレースにイーストウインドのメンバーとして本気で出てみたい！と言う人も人を募集している。

【参加条件】

男子  
 フルマラソン3時間30分以内、もしくはハセツネ10時間以内、もしくは国内アドベンチャーレースの優勝経験がある、またはそれ相当の記録がある

女子  
 フルマラソン4時間以内、もしくはハセツネ12時間以内、もしくは国内アドベンチャーレースの優勝経験がある、またはそれ相当の記録がある

水泳連続して400M以上泳げる

【問合せ先】  
 イーストウインドプロダクション info@east-wind.jp

海外の大舞台で世界中のアドベンチャーレーサーを相手に一緒に戦う仲間を募集しています！

## GALA6時間耐久チャリテイトレイルランニンググリー2009

来る8月22日(土)にGALA湯沢スキー場(新潟県湯沢町)にて、GALA6時間耐久チャリテイトレイルランニンググリーが開催され、田中正人はコースディレクターを請け負つた。これは6時間内にどれだけ走れるかを競うもので、チーム(3~8名)でも個人でも出場可能。これは日本初のトレイル耐久レースとなる。

主催/株式会社ガーラ湯沢  
 主管/有限会社カッパクラブ・イーストウインド・プロダクション  
 種目/6時間耐久トレイルランニンググリー  
 募集/小学生以上の一般男女1000名

詳細はこちら  
<http://www.trailrunner.jp/2009/gala6.html>

## 8月9日 KOC:日本山岳耐久レース夜間走行練習会

日本山岳耐久レースのエントリーもあつという間に終了。この大会の盛り上がりは留める事がない。それと同時に毎年開催の期待の声を多く頂く夜間走行練習会。

そこで今年も同講習会8月9日に行なう。この講習会は夜間のレースコースに慣れることと、装備の検討を行なうことを目的としているので、体力的に無理な走行はしない。「夜に山を走るのにはちよつと」と言う人のための短時間練習である。自然に対する危機管理・雨天・夜間行動を得意とする田中正人が長年の経験を培ったノウハウを教える。

(定員に達したため参加者募集は締め切りました)

## トレーニング生 倉田文裕の日々

今年4月からトレーニング生として入門した倉田文裕。現在、カッパクラブラフティングガイドになるため、日々努力している。

学生時代はサッカーやテニスで鍛えてきたが、本格的に水スポーツをやるのはこれが初めて。しかもいきなりラフティングガイドになるトレーニングである。

入門してきたトレーニング生も、このガイドトレーニングでくじけてしまう若者が多い中、前向きで慎重な性格で、徐々に力をつけてきている。将来が頼もしいアスリートである。

倉田のトレーニングメニューを毎週月曜日にアップしているので、来年トレーニング生になる事を考えてる人は参考にして欲しい。

(トレーニング日誌はこちら <http://east-wind.seesaa.net/>)



## みなかみ町商工会産業観光商品開発室

田中正人は今年の5月よりみなかみ町商工会の観光振興事業に携わり、谷川岳を中心にみなかみ町の自然を活かした活動を企画している。自然豊かなこの町で、今後も町とアウトドアの発展のために色々な活動を展開していく事に尽力していきたい。

## 谷川岳の自然観察会



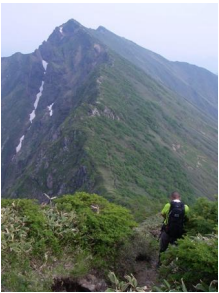
6月26日谷川岳エコツーリズム推進協議会準備会の自然観察会(地質編)が開催され、田中正人も参加した。我々は谷川岳に登ったり、麓でラフティングをしたりしているが、そんな谷川岳も何百万年かけて沈下や隆起してきた山である。

ひとつの岩の破片から何億年間も自然と共に静かに営み続けている谷川岳の壮大なロマンを思い描く講習会であった。こうした講義を今の学校教育にも取り込んでみてはどうだろう。机上では分らない歴史に時下に触れる事ができて、地質学が楽しくなる。

## 東京ハセツネクラブ谷川岳縦走

ハセツネ30Kを運営した東京ハセツネクラブのメンバーで谷川岳の馬蹄形を一周した。同クラブに所属する田中正人も同行。この日、みなかみ町では滅多にない30度を超え、しかも六月にこの気温に達し、ペースはゆっくり目。その分、高山植物にも目が行った。

谷川岳は高山植物の花がピークを迎え、とても美しい。森林限界を越えた世界は非常に気持ちが良い。



## 馬耳東風

ARS南信州大会が延期となる事態を発生させてしまった。アドベンチャーレースは借り切った競技場内で行なうものではないので、一般社会のルール、マナーに則るとともに、主催者側も事前に地域の理解と協力を得なければならぬ。このところがもっとも大切でかつ大変なところである。地元での理解というのは各組織(役場、警察、自治会、農協、漁協、等々)の長を通せばよいというものでもなく、その組織内で検討してもらう必要がある。

三浦横須賀大会では、その点で苦労があった。各組織の長には話を通してあったのだが、末端の人まで理解されておらず、大会直前になってクレームが発生した。長が「いいよ、いいよ」で安請け合いでする場合は、注意が必要である。我々としては「あとは任せます」ということで助かるのだが、各組織での正式な会議などで検討する手順を取ってもらわないと、問題が発生することもある。時間も掛かるし面倒なことだが、地元の理解を得るとはそういうことなのである。

こうした問題は、みなかみ町の町内活動でも発生している。祭りやイベント、各協議会などで町民の足並みが揃わないことが少なくない。「聞いていない」、「私には話がなかった」、「誰々が勝手にやっていることだろう?」などである。話を進める手順を慎重にしないと、一度こじれると修復不可能なケースもある。滅私奉公よりも滅公奉私が多いことも心しておかなければならない。

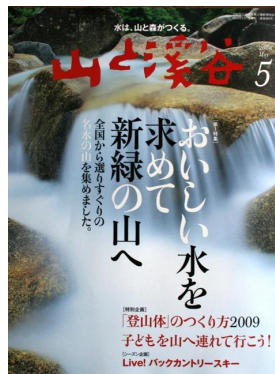
田中正人

## メディア情報



『ヤマケイJOY』  
(山と溪谷社)

5登山ビギナー対象に山歩きの楽しさを伝える雑誌ヤマケイJOY。5月号の『実用連載 山や天下統一! 薬の章』はグルコサミンとコンドロイチンが紹介されている。田中正人はその監修を担当。今年登山を計画している方には一読をオススメする。



『山と溪谷5月号』  
(山と溪谷社)

4月15日発売の『山と溪谷5月号』(山と溪谷社)に、スノーシューレースの記事が掲載されている(P238-239)。

「スノーシューを履いてわざわざ走るのは何故?」と疑問に思う方、その鍵がここにあるかも!?



『MOUNTAIN GEAR  
GUIDE'09-'10』  
(山と溪谷社)

最新の登山用具を知りたいければ6月5日発売の MOUNTAIN GEAR GUIDE'09-'10(山と溪谷社)がオススメ。3000以上のアイテムが掲載されている。田中正人の愛用アイテムもP55で紹介!